第4回 オープンアクセス加速化事業におけるNIIの開発内容を説明する会（2025年9月25日）事後アンケート回答

項番	ご意見など	回答
1	本学は先行利用等はしていないです。学認RDMを導入、「研究データ公開・利活用ポリシー」と「オープンアクセスポリシー」を制定、はしている状態です。現状で何をしておけばいいのか分かっておりません。連携リリース後に、研究支援課と図書事務課で具体的な機関で決定する運用等について検討をする心づもりでよろしいのでしょうか。	連携リリース後に研究支援課と図書事務課で具体的な運用を検討する進め方でも問題ありませんが、事前に研究支援課と図書館の間で役割分担を整理し、データ公開の審査フローを大まかに描いておき、研究者向けのQ&Aや簡易ガイドなどの基礎資料を準備しておくとスムーズに運用検討に入れます。
2	2件目のご発表で，研究管理者にあたるのは大学ではどのような立場の方なのかが気になりました．例えば，研究室長などでしょうか．また研究者＝研究管理者の場合はメールによる承認はスキップできるでしょうか．（当日の質問時間に質問したかったのですが，私の予定の都合で質問時間前に失礼させて頂きました）	承認作業はリポジトリに責任をもつリポジトリ管理者が実行することを考えています。
3	本学ではGRDMも学認も未導入ですが、ご質問です。 現在、リポジトリ担当者が論文を登録時にJAIRO Cloud上からDOIを付与しておりますが、今後のGJ連携においては（主に）研究者がGRDMにメタデータを付与するタイミングでDOIも研究者が付与するようなイメージになりますでしょうか。 未導入で理解できていない部分もあるかと思いますが、ご教示いただけますと幸いです。 どうぞよろしくお願いいたします。	DOIの付与は機関としての発行となるためリポジトリ側で行います。そのため、リポジトリ側では、DOIを付けての発行となる場合は、メタデータの再確認がリポジトリ側で行って頂く想定でおります。（なお、GakuNin RDM単体ではDOIの付与機能はございません。）
4	同一プロジェクト内に論文も研究データも保存してある場合、JAIRO Cloudへの登録時にそれぞれ別のインデックスに登録することはできますか？（本学では、論文と研究データでインデックスを分けています）	リリース予定の仕様では、プロジェクトから接続可能なインデックスは同時には一つのみとなっているため、論文と研究データを同時に送付した際には同一のインデックス内の異なるアイテムに登録されます。別のインデックスに登録する際には、アドオン設定でインデックスの再設定が必要となりますが、その際、論文と研究データの紐付けは自動的には行われません。
5	・下山先生のスライド11枚目「研究者がリポジトリ登録実施にあたり、研究管理者に承諾を得る」について、プロジェクト単位で、研究者がリポジトリに登録する毎に管理者に承諾を求めるイメージでしょうか。 ・質疑応答の時間に、研究者に機関リポジトリのアカウントが必要な場面をご教示いただいたと存じます。PIだけアカウントがあればよい、とお聞きしたようにも思いますが、理解が不十分ですので、再度ご教示いただけますと幸いです。 ・リリース後、試行錯誤しながら使い方を理解し、説明用資料を一から作るのは、多大な時間と労力を要します。今後の推進にあたり、職員側にも研究者側にも、説明資料は大変重要です。資料のご提供について、何卒ご検討の程どうぞよろしくお願いいたします。	機関リポジトリへの登録毎に研究管理者の承諾を得る必要があるかどうかは、機関の研究データポリシーあるいは研究プロジェクト毎の規定に基づきます。その際にGakuNinRDMから機関リポジトリへのデータ公開時には、何らかの承認フローが必要と考えます。PIはPrincipal Investigatorで教授等の研究主宰者をさします。通常はPIに発行される機関リポジトリの研究者アカウントを、GakuNin RDM中で一度紐づけることで同じグループの一般研究者は機関リポジトリにデータ公開ができるようになります。
6	大学内でデモはできるのでしょうか。図書館ではなく、実際に研究者に触ってもらって導入を検討したいと思いました。	デモ環境の構築は次年度に検討しています。
7	・JCのアカウントを研究者1人1人に発行するのではなく、学認の認証でJCにログインする場合の流れがよく分からなかったのでもう少し詳しく知りたいです。 ・GRDM側でのインデックスの選択の操作の部分や、JC側でのワークフローを設定した場合の登録方法の流れについても詳しく知りたいです。 ・GRDM側のワークフローの機能について、だれがどのタイミングで使うのかよく分かりませんでした。	学認の認証でJCにログインする場合は、機関の学認IdPを選択いただき、機関のIdPにログインすることで、JCにログインできるようになります。 GRDMのリポジトリ連携機能用マニュアルをポータルサイトにて適宜ご提供させていただく予定です。 GRDM側のワークフロー機能は、両システムの裏側で稼働し、承認フローや公開フローなど業務プロセスの支援を行う裏方の機能になります。

8	本学はGRDMは利用していますが、JAIRO Cloudは利用しておりません。本日の説明内容ですと両方を利用して初めてGJ連携のメリットを享受できるので、GRDMを未利用の機関は是非利用ください、全力でサポートしますとのことでしたが、JAIRO Cloudをこれから利用し始める機関にも同様のサポートがいただけるのでしょうか。現状、JAIRO Cloudのほうは不具合も多く、また、問合せへのレスポンスも時間を要しているようで、不安があります。	JAIRO Cloudのお問い合わせ先は以下に記載しております。 https://jpcoar.org/inquiry/ また、JPCOARのサポートページには、JAIRO Cloudに関するイベントなども掲載しております。ぜひご覧ください。 https://jpcoar.org/support/ 問合せのレスポンスの改善はJPCOARとも協力しながら進めて参ります。
9	GakuNin RDM中で研究者が付与するメタデータは目下、即時OAのために付与すべきメタデータであって、オープンサイエンスを鑑みたときに各学術分野で付与すべき（と考える）メタデータとは必ずしも一致しないものと考えます。そのあたり、拡張（という表現が正しいのか分かりませんが）される予定はあるのでしょうか。 研究データの容量が大きく、Jairo Cloudそのものに研究データを置かない（参照させる）場合、GJ連携は使用できるのでしょうか。 私は非常勤ではありますが、リポジトリ業務をweko2の頃からしてきております。 Jairo Cloudを使用する大学の中には非常勤で年度更新、図書館の業務は初めて、なんだったら図書館の職員は自分だけという方もいらっしゃるのではと思います。そういった人もすんなり利用できる仕様であることが望ましいと思います。	ご認識の通り即時OAで必要な書誌情報や根拠データについて、専門分野で必要なメタデータと粒度やレイヤーが異なります。分野別メタデータへの対応については、現時点では予定されていません。分野のメタデータについては、記録はできても流通の問題がございます。現在対応方法を検討中です。
10	GakuNin RDMでどのようなことができるようになるのかを知りたいです。	GakuNin RDMサポートポータルに活用事例などを掲載しております。ぜひご覧ください。 ・活用事例　https://support.rdm.nii.ac.jp/casestudy/ ・イベント・公開資料　https://support.rdm.nii.ac.jp/events/ ・使ってみよう　https://support.rdm.nii.ac.jp/getstarted/
11	「論文の一部として公開することが適切である研究データは 様式（B）で、論文とともに研究データを登録・公開してください。」という表現が下記サイトにあったため、「論文＋当該論文の根拠データ」の組み合わせのリポジトリコンテンツの場合は、原則として様式(B)でリポジトリに登録する方向なのかなと受け止めていた。一方、今日の説明では、様式(A)が基本であるとのニュアンスを受けた。AとBの区別を明確にしていただけると助かることと、Bの場合のリポジトリのメタデータ（論文と根拠データ）の付与方法がどうなるのか自分が分かっていないので説明の機会をいただけるとありがたいです。 https://support.nii.ac.jp/ja/cir/researchdata_harvest	選択する様式は、根拠データの性質や論文掲載誌の方針によっても異なり、様式（B）が推奨されているというわけではありません。ひとつの研究成果として根拠データのメタデータを流通させる場合は、様式（A）で公開いただく必要があります。 GakuNin RDM-JAIRO Cloud連携は、様式（A）と様式（B）のどちらの様式でも登録できるよう開発を進めています。 ※CiNii Researchの『「研究データ」「根拠データ」の収録について』 https://support.nii.ac.jp/ja/cir/researchdata_harvest サイト上の表記をわかりやすく変更しました。
12	JCとの連携にて、RDMからの登録は、CiNii Researchの様式「（A)＝論文とデータは別アイテムとして登録」ということですが、根拠データの登録としては、「様式（B）：論文を公開する主アイテムの一部として、「根拠データ」のファイルを付属する形で公開する。」が推奨されているのかと思っておりました。 （B)の様式で登録する場合はRDM経由では登録できない？ということを教員へ周知するのは、運用上かなり難しい気がします（先生方に説明できるだけの図書館側のデータ登録への知識対応能力不足と、先生方の入れ替わりは激しく、常に新しい教員へ周知徹底できるのか、不安というか疑問です）。 説明会でも参加者からご発言がありましたが、先生方がメタデータを手入力された場合、正しく登録されていない可能性がかなり高い、かつ、それを正しい形へ入力修正を図書館側で行う、のはさらに負担だと感じました。	